

グループハウス「シャロームつきみ野」

◆ ◆ ◆開設から9年目を迎えて◆ ◆ ◆

- 1 事業プロフィール
- 2 事業の概要
- 3 ハウスの春夏秋冬
- 4 NPO法人による運営
- 5 居住者数の推移
- 6 高齢期の生活自立を支える住まい
～9年余の暮らしを省みて～

玄関



竣工時の建物全景写真 1999年6月26日

1 事業プロフィール

【1996年】

- 10月 事業概要の提案
- 12月 事業計画（建設計画、事業収支、事業の進め方）の検討

【1997年】

- 5月 リーフレットの作成
- 7/19 西嶋公子医師による記念講演76名参加
- 7/23 事業説明会
- 10/18 第1回懇談会
- 12/17 第2回懇談会

【1998年】

- 3/13 第3回懇談会/実施設計着手
- 4月 入居（賃貸）契約書等の検討
- 5/9 第4回懇談会
- 7/11 第5回懇談会
- 9/12 第6回懇談会
- 11/14 第7回懇談会/工事着工を祝う会

【1999年】

- 3/13 第8回懇談会
- 5/8 第9回懇談会/モデルルームオープン
- 6/26 オープンセレモニー（竣工式）8世帯11人入居
- 7月 厨房スタッフグループ「クックシャローム」発足
- 8月 「いきいき」9月号で紹介される
- 11月 NHK「おはようジャーナル」で紹介される
反響が大きく、見学希望問い合わせが殺到
- 12月 全国から150～160名が見学会に参加
入居希望者個別面談実施
- 12月 入居者13世帯16人

【2000年】

- 1月 入居者14世帯17人（満室）

【2001年】

- 1月 ミニデイサービスの開始
- 2月 「いきいき」2月号で紹介される
- 3月 NHK「首都圏ネットワーク」で紹介される
- 6月 ご夫妻で入居の妻が亡くなられ、初めての葬儀をホールで行う。
- 12月 薬膳配食サービス開始（月1回）

【2002年】

- 4～3月 大和市パイロット事業助成
NHKビデオ教材発刊（家庭科ベストセレクション）
- 6/28 「特定非営利活動法人シニアネットワークさがみ」の認証
- 7/1 シニアネットワークさがみによる
「シャロームつきみ野」運営管理業務の受託開始
- 7/20 NP〇法人設立記念
&シャロームつきみ野3周年記念セレモニー
- 8月 移送サービスの試行開始

【2003年】

- 4～3月 大和市社会福祉協議会活動費助成
- 5月 移送サービス本格実施
- 7月 NP〇第1回定期総会
- 8月 松岡洋子氏講演会開催
- 9月 薬膳配食サービス月2回開始
- 11月 ミュージックセラピー開始（月2回）
「卓球クラブ」活動開始

【2004年】

- 1 月 新春福祉セミナー開催
西嶋公子氏（コミュニティセンターにて）
ミニデイサービスの開始
NHK「生活ほっとモーニング」で紹介される
- 2 月 日本財団より福祉車両の寄贈
- 4～3 月大和市パイロット事業助成
- 4～3 月大和市社会福祉協議会活動費助成
- 8 月 国際医療福祉大学院生実習受入れ
- 9 月 大和市協働事業推進委員視察

【2005年】

- 4～3 月大和市社会福祉協議会活動費助成
- 7 月 工学院大生研修

【2006年】

- 4 月 道路運送法第80条第1項許可取得
自家用自動車有償運送事業開始
大和市有償運送運営協議会委員選出
- 4/21 テレビ朝日の番組で紹介される
- 4～3 月大和市社会福祉協議会活動費助成
- 5 月 大和市ごみ袋販売事業所の指定取得
- 11 月 厚生労働省職員視察
「NHKラジオ深夜便」で男性の調理ボランティア活動が紹介される。

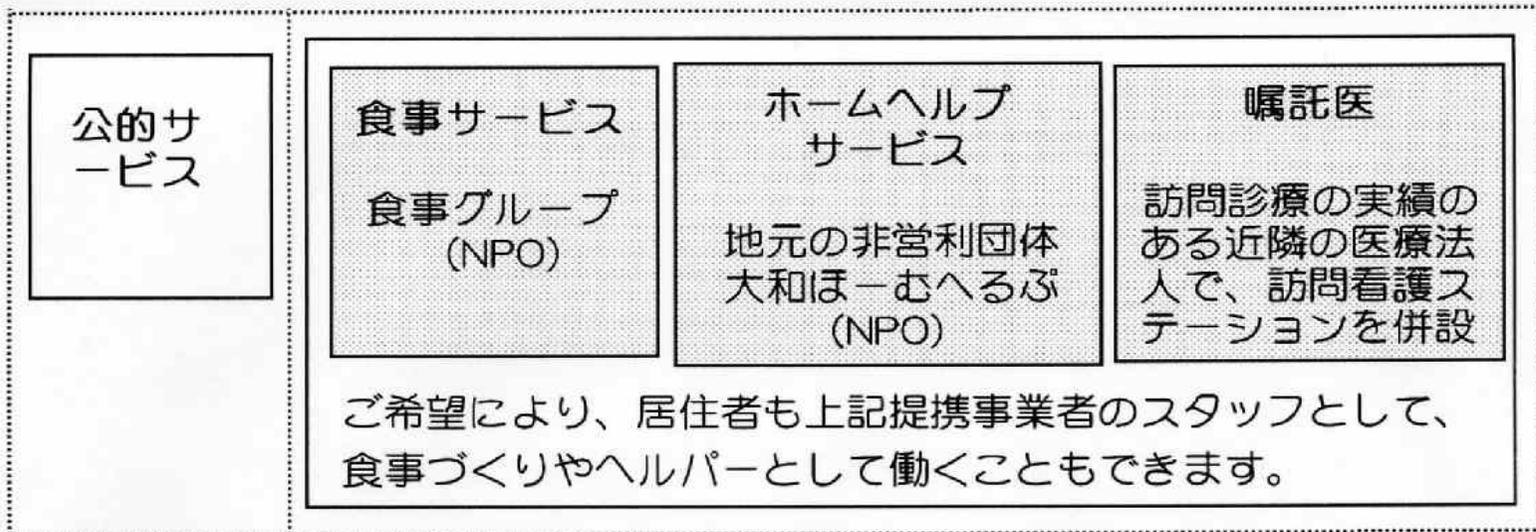
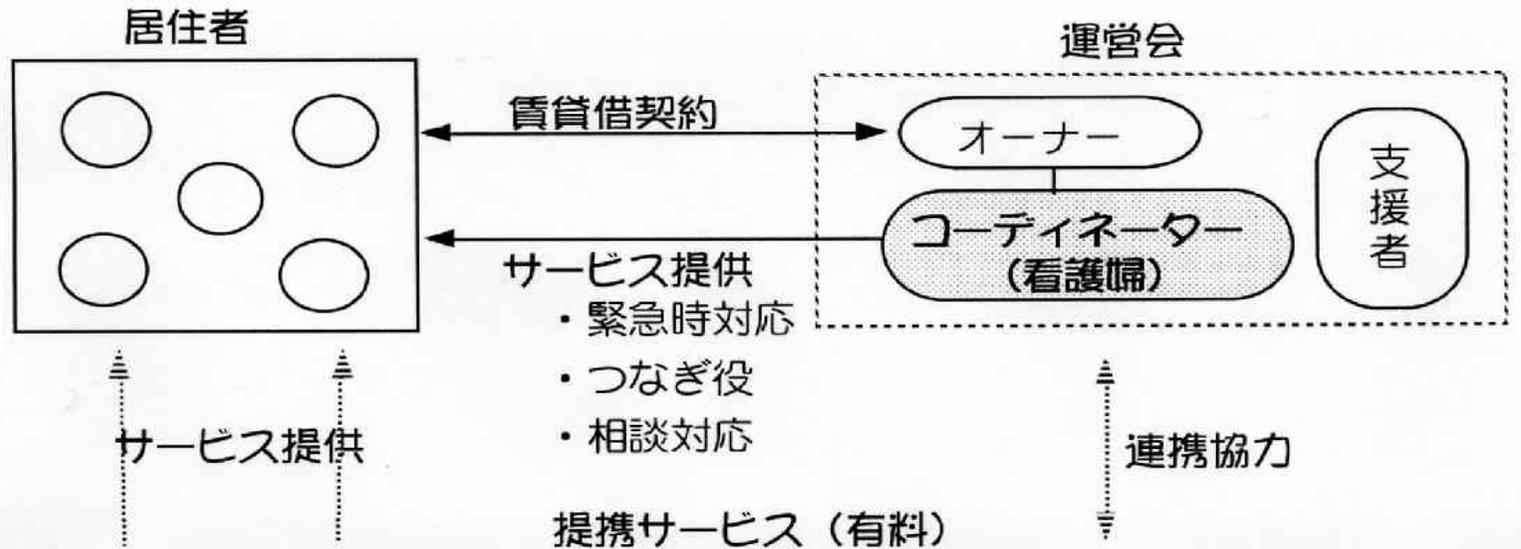
【2007年】

- 1 月 薬膳配食サービス単価値上げ
- 3/11 大和市合唱団フェスティバルに「シャローム合唱団」参加
- 4～3 月大和市社会福祉協議会活動費助成
- 7 月 寄付によりコピー機交換（一部NP O負担）
- 10 月 イオンより団体助成受ける
- 12 月 薬膳配食サービス月3回開始予定

2 事業の概要

- 設置者：有限会社シャローム木下
- 運営者：NPOシニアネットワークさがみ
- 事業方式：賃貸住宅事業
- 所在地：神奈川県大和市下鶴間215
- 用途地域：第1種低層住居専用地域
- 敷地面積：1,269.58㎡
- 入居開始：平成11年6月26日
- 構造・階数：鉄骨造・2階建て
- 建物規模：980.03㎡
- 住戸数 14
- 住戸規模：3タイプ / 52.0㎡(3戸)、40.0㎡(10戸)、28.0㎡(1戸)
各住戸にトランクルーム付き
- 総事業費：約2億3千万円
- 入居条件：特になし。身体的なハンディがあっても自立した生活のできる方。
- 入居費用：家賃：入居時一時金(償還あり)と月額の家賃併用可。管理費：3.5万円/月
- 連携サービス：食事(昼、夕)、医療、介護・ヘルパー派遣
- 共用スペース：玄関、ロビー、イベントも出来るダイニング兼多目的ホール
厨房、談話コーナー、コーディネーター室等々
- 設備：エレベーター、緊急通報システム
共用スペース及び各個室の玄関・浴室・洗面所・便所に手すりを設置。
屋内は全て段差なし。

自立生活支援のためのサービス



試行錯誤が前提の(いろいろ試みた)運営

☞食事づくり

3人の女性起業家 ⇒ 少人数スタッフによる調理体制



30人／月弱のメンバーによる非固定ローテーション体制
都合の良い時に、自由意志で参加する。

☞食事テーブルのレイアウト

並列、直列 ⇒ 皆の顔が見える口の字型

☞話し合いの場

運営会＋居住者 ⇒ コーディネーター主催のサロンに

☞地域交流・行事

- ①年末 地域のガールスカウトの来訪
- ②クリスマス会
- ③週1回 生花のレッスン
- ④秋 防災訓練＋炊き出し 芋ほり、栗拾い
- ⑤春・秋 花見・バスハイク、梅拾い、梅干づくり
- ⑥夏 竹林の竹を使った流し素麺の会 等々

☞緊急対応

現在は：昼間／コーディネーター＋事務局スタッフ
夜間／オーナー木下

配食サービスの取り組み

—薬効を取入れた健康を増進する弁当—

- ◆月1回 第3金曜日 午後4時30分から配達します。
- ◆1食¥700円です。
- ◆1食から配達します。
- ◆調理は栄養士、調理師の免許を持った調理大好きなスタッフによる手作りです。
- ◆添加物、冷凍・半調理品は一切使用していません。
- ◆近くの木下農園から朝採れたばかりの野菜を、四季折々使っています。

例えば…

- ・春……青菜、春菊、ほうれん草、キャベツ、さやえんどう
スナックエンドウ、筍
- ・夏……梅、玉ねぎ、トマト、胡瓜、茄子、ピーマン、ジャガイモ、オクラ、インゲン
- ・秋・冬……栗、大根、葱、小松菜、白菜

ミニデイサービスの取り組み

ほのぼの会

- 健康でいきいき、生きがいのある暮らしを応援します。
- ちょっとしたリハビリレクリエーション、世代間の交流、ボランティアさん手作りの美味しい昼食があります。
- 介護予防に役立ちます。
- 自分流の参加でお楽しみください。

日時 第4水曜日 11時～15時
場所 シャロームつきみ野多目的ホール
内容 健康体操 ストレッチ ゲーム
手遊びなど
昼食 採れたて野菜の豊富な手作り
ランチ
会費 700円（昼食代・おやつ代）



移動サービス



2004年2月／日本財団より福祉
車両の寄贈を受ける

2006年4月／道路運送法第80
条許可取得

地域の利用会員7人

主に病院への送迎で活用しても
らっている。

5. <居住者数の推移>

	世帯数	人員	退去等
■1999年 7月オープン時	8世帯	11人	
12月	13世帯	17人	
■2000年 1月	14世帯	18人	(満室)
6月	14世帯	17人	死亡1
■2002年11月	14世帯	16人	死亡1
12月	13世帯	15人	死亡1
■2003年 3月	11世帯	13人	転居2
3月	12世帯	14人	入居1
5月	10世帯	12人	転居2
6月	9世帯	10人	転居1
7月	10世帯	11人	入居1
■2004年 4月	11世帯	12人	入居1
5月	12世帯	13人	入居1
9月	13世帯	14人	入居1
■2005年11月	14世帯	15人	入居1
■2006年 6月	13世帯	14人	死亡1
11月	14世帯	15人	入居1
■2007年 4月	13世帯	14人	転居1

当初：2人入居世帯 4

現在：2人入居世帯 1

<居住者像>

- ①平均年齢：80.3歳
- ②女性のみ。
- ③姉妹入居1世帯、他は単身世帯
- ④当初から入居の世帯は7世帯8人
- ⑤障害者認定：2人
- ⑥要介護度1～4認定者：6人

<転居理由>

- ①最寄り駅までの距離が思ったより負担
- ②難病なので、やはり常時の医療体制がないのは不安になってきた。
- ③進行性或いは重度の認知症で、同居者が不在では日常生活できない。
- ④娘と同居できることになった
- ⑤重い疾患で、24時間の医療的ケアが必要になった。

6 高齢期の生活自立を支える住まい ～8年余の暮らしを省みて～

- 1 **協同居住(グループハウス)の安心感には高い満足。**
居住者本人だけでなく取り巻く家族も。
精神的にも、具体的なケア対応等についても。
- 2 **「自立」した個の集まりが基本となる**
しかし、今の(女性)高齢者は?? 呪縛が強い。
「～しなければならぬのではないか?」「要請もないのに手
が出てしまう。」
- 3 **年齢によっても異なるニーズ**
家事・身体介護が必要になってくるのは一般的には80歳 以上で
、70歳台では不安要素が強い。(個人差は大きい)
身体介護が必要になると、生活拠点移動に対するニーズは
強くなる。

4 個人経営では難しい運営業務

NPO法人設立により、これまでより以上に「居住者と運営者」の対等な関係を構築、地域居住者との関わりも濃厚に。

共用空間の地域利用の活性化

5 コミュニティビジネス(地域の働く場)のひとつとしてのグループハウスの運営

前期高齢者 & 60歳～65歳の高齢予備群の関心が高い。

女性だけでなく男性も。

住まい方と同時に、地域に関心を持ち始めている。

6 もうひとつの「豊かな高齢社会」の実現を

～高齢期こそ多様な住まいの実現の可能性が広がる～

高齢予備群は、今高齢者群より価値観が多様。

変遷する住まい観

終の住まい ⇒ 身体状況により生活拠点を変える
(人生価値の追求)